

まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 達也, 長沼, さやか メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00028553

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、毎年5月下旬から6月上旬にかけての時期に、4泊5日の日程で静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の暮らしについて学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本分野に在籍する学部3年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献や統計、地図などの資料を収集し、現地を下見するなど事前準備を進め、自らの関心によってテーマを設定して本調査にのぞみます。

今年度の調査地は静岡市清水区興津でした。6月6日（日）から11日（金）の期間中、教員2名と学生10名（赤池泰輝・池上卓弥・斉藤由希子・篠田拓真・關莉音・袴田竜我・本田紗英・町田直人・松井祐太・米澤さくら）の12名が実習に参加しました。コロナ禍の影響で、宿泊しての調査は叶いませんでしたが、興津地区連合自治会会長の高山茂宏氏のご厚意で興津生涯学習交流館の一室を拠点としてお借りすることができ、日帰りでの現地調査を実施しました。

興津は古くから、東海道と甲州道が交差する宿場町として発展してきました。駿河湾と緑豊かな山々を望める景勝地としても知られ、明治期には別荘地としても栄えました。しかし、昭和に入ると、東海道新幹線、東名高速道路、国道1号バイパスの建設、興津埠頭の整備を経て、町の景観は大きく様変わりし、産業にも影響が生じました。また、行政単位においては、昭和の大合併で庵原郡興津町から清水市興津に、さらに平成の大合併で静岡市清水区興津になりました。このような歴史の変遷の中で、興津は様々な人々が行き交う場所であり続け、そこでは多様な活動が展開されてきました。そうした活動に様々な立場から関わる方々にお話を伺うなかで、学生たちは「地域」の一員として暮らすということがどのような経験であるのか、という問いについて深く考えてきました。この報告書は、その問いに対する学生たちなりの答えです。

調査にあたっては、多くの方々からご支援を賜りました。一昨年度に続いて、高山会長には本調査実習の円滑な進行のために様々なご尽力をいただきました。興津生涯学習交流館の市川館長と職員の皆さんは、私たちの施設利用へのご理解とご協力のみならず、学生のテーマに関係する方々との仲立ちもしていただき、お世話になりました。ほかにも紙幅の関係上、お名前を申し上げられなかった皆様をふくめて、この場で厚くお礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記のURLからもご覧いただけます。

<http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/>

令和3年12月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース

山本 達也

長沼 さやか